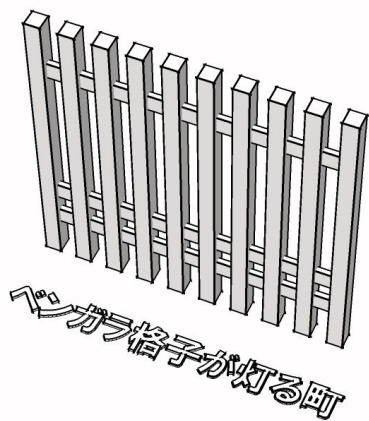


小浜西組マスタープラン

2009

小浜西組町並み協議会



シンボルマーク（仮称）

ベンガラ格子をデザインし格子の10本の本数は

青井・飛鳥・大原・香取・貴船・浅間・鹿島・白鳥・
男山・住吉を表し横棧で協力を表している。

今後さらに増えることも期待している。

ベンガラ格子が灯る町

テーマ

『ベンガラ格子』は西組にある町並みをはじめとする文化を象徴し。『灯る町』は町に人が住んでいることを表しています。

豊かな文化とたくさんの人が住む町にしたいという想いをこめています。

ベンガラ格子が灯る町

小浜西組について。

後瀬山と小浜湾との間に、町家の建物が並ぶ古い町並み小浜西組。400年前に武田元光の城下町として栄え、武家屋敷と町家が混在する町が形成された。京極高次により雲浜の地に城が移築された後は丹後街道を中心に商家町として発展し、今なお屋号などで名残を残している。現在ではこの土地が経験した歴史を知る人も少ない。

歴史の中心ではなくなった後も、旧丹後街道沿いに商店が並び、町にはたくさんの人が住んでいた。それほど車も通らない道で子ども達が遊び、買い物かごを持った母さん達が道端で世間話をしていた。人を中心とした町で、地域の中での需要と供給が循環し良好な住環境が形成されていた。

しかし、今では時代が移り変わり、個人の多種多様な文化が取り込まれ生活スタイルも大きく変わった。移動手段も自転車から自動車になり町の中でも車が頻繁に行き交い、路上駐車も増えた。両隣を建物で挟まれた細長い敷地に、自由な住環境の可能性を絶望し、駐車場の確保や自由な建築様式を求めて郊外へと移動していく人もいる。

数多くあった八百屋や駄菓子屋などの多くの商店が廃業し、車を持たないお年寄りには買い物すらできない住みにくい町になろうとしている。住む人が居なくなった町家は、手入れされることなく朽ちて解体され、空き地ばかりが目立つ町並み。人から人へつないできた町の独特の文化はなくなり、何の魅力もない寂しい町になっていくことだろう。その時はじめて多くの人達が素晴らしい『宝物』を失ったことを気付く事になる。

現在この場所に住む私たちは、次の世代にそんな思いをさせてはならない。私たちは、先人から受け取った『宝物』をさらに価値を付けて次の世代へ渡すこと。それが出来なければ、せめて受け取った『宝物』をそのまま次の世代へ渡さなければならない。昔のように住むべき人が住み、人を中心とした魅力のある町を取り戻すことだけのことである。その先は、次の時代の人たちが同じように考えればいい。

人は町にとって血液であり命そのものである。この町にたくさんの人たちが集まり生活を始めることは、町の利便性向上や活性化に直結する。人が住みたいと思う条件の一つとして、子ども達の安全で元気に成長できる環境が求められている。地域のおとなが地域の子どもの見守り育てる環境整備が実現すれば、心豊かな子どもたちが増えるだけでなく、おとなである私たちにとっても健全で住みよい場所となり、たくさんの人たちが希望を持って住む町になっていく。

また、この町に残る数多くの文化は、長い歴史の中でこの町を行き交うたくさんの人々よって運ばれてきた。これからも、たくさんの人をこの町に導き、私たちが持つ『宝物』をたくさんの人たちと価値観を共有することも大切である。先人が長年に渡り守ってきた道徳心や信仰心そして、外部の人を受け入れるオモテナシの心など、見えないものまでも町づくりに反映し形にしていかなければならない。

2008年この小浜西組の町並みという文化が高く評価され、文化庁より重要伝統的建造物群保存地区に選定された。西組に住む私たちはこの町家の修理修景運動だけにとどまらず、住む人を第一に考えた町づくりを自ら考え、話し合い、行動してこの町の『宝物』を次の世代へ渡していかなければならない。

「町のにぎわい」と「文化の継承」私たちがまずしなければならない事はこの二つである。

町のにぎわいの復興

私たちが求めている町は、映画のセットでもないし、みやげもの屋のショーケースでもない。人が住むための町である。快適な住環境の基準を地域の宝物である子どもを中心に考える。そのために教育環境整備、車社会との対応、快適居住性、安全安心な町、円滑なコミュニティーの促進などを進め快適な住環境を整備し、人口増加を通じて町のにぎわいの復興を実現していく。

1. **核家族化から直系家族へ**
 1. 特色ある教育環境を整備する
 2. 3世代家族が住みやすい環境を造る
 3. 子どもたちが遊べる環境を造る
2. **車が中心の道路から人を中心とした道へ**
 1. 路上駐車根絶
 2. 通過車両の抑制
 3. 歩くための道の整備
3. **誰かに守られる弱い町から自ら守る強い町**
 1. 一門一灯運動
 2. 防火システムの確立
 3. 一年を通して歩行者の安全確保
4. **住みにくい町家から住みたい町家へ**
 1. 快適な町家のライフスタイルの提案
 2. 小浜町家のブランド確立
 3. 文化著名人誘致
5. **機械依存環境から自然共存環境へ**
 1. 地区内排気ガス抑制と省エネ促進
 2. 平成文明開化運動（eco活動）
 3. テレビの前から人の前へ
6. **町家の解体から町家の利用**
 1. 空き家・空き地利用の提案
 2. 空き家の仲介業務
 3. 購入費用の融資制度

町家文化の継承

この土地に存在するたくさんの神社仏閣に着目し、古い町家の家を残すだけにとどまらず、かつて神社やお寺が学問やコミュニティーなど文化の拠点であったことを踏まえ、形のある町並みと共に形のない文化も継承し寺町として町並みを整備していく。

1. 都市計画文化

1. 神社お寺参道整備
2. 歴史背景を形に
3. 都市計画の歴史の探究

2. おてら文化

1. 花まつりの実施
2. カルチャースクール
3. 寺子屋の開催

3. 祭り文化

1. 縁日の復興
2. 住民意識の改革
3. まつりの歴史の探究

4. 建築文化

1. 町家修理保存技術の向上
2. 重伝建を住民に理解してもらう
3. 改修工事の促進

5. 商業文化

1. 起業支援
2. 町家ペンションの実現
3. 商業の歴史の探究